



成人の MFT —考慮すべき点と実際の効果

高橋矯正歯科クリニック

高橋 治、高橋未哉子

MFT(口腔筋機能療法)は成長期のみならず成人の患者に対しても効果が認められる。成人の MFT の訓練内容は成長期のものと基本的な構成は同じだが考慮すべき点もいくつかある。

成人では成長期の患者にみられるような「MFT 単独で開咬が改善する」というような機能の改善に伴う自然な形態変化にはほとんど生じない。そのため、矯正装置による形態改善と、MFT による機能改善の両方を併用する機会が多く、矯正治療の進行程度と MFT の訓練内容を上手にリンクさせる必要がある。例えば、前歯部が突出しているケースでは、口唇閉鎖時にオトガイの過緊張が生じていることが多く見られるが、前歯部を後退させる前にリップエクササイズを行っても効果がないばかりか、オトガイの緊張がさらに増してしまうことにつながる。したがって、リップエクササイズは口唇がリラックスして閉鎖できる歯列形態になるまで無理に行わない方が良い。

また成人においては、咬頭嵌合位と下顎位との関係を確認しながら MFT を行うことが重要である。成長期の患者では機能的矯正装置により下顎をあえて前下方に位置付けることにより整形力を期待する場合があるが、成人の患者においては、常に生理的な下顎位を参照しつつ矯正治療および MFT を行う必要がある。

成人にはブラキシズムが認められることが多いということも、MFT の指導を進めていくうえで重要である。ブラキシズムは、装置の破損、知覚過敏、装置による口腔内の不快感などの原因となり、矯正治療の進行の妨げになりやすい。

成人の MFT において考慮すべき点と実際の効果について、豊富な動画と写真と共に提示したい。

略 歴

高橋 治

日本大学松戸歯学部卒。同大学院修了。
歯学博士。国際口腔顔面筋機能学会 (IAOM) 認定
口腔筋機能療法士 (Certified Orofacial
Myologist)。日本矯正歯科学会専門医・認定医・
指導医。日本舌側矯正歯科学会認定医。
日本口腔筋機能療法 (MFT) 学会会長。

高橋未哉子

日本歯科大学付属歯科専門学校歯科衛生士科卒。
大野矯正クリニック勤務後、米国にて Barrett 氏
および Zickefoose 氏より MFT を学ぶ。国際口腔顔面
筋機能学会 (IAOM) 認定口腔筋機能療法士
(Certified Orofacial Myologist)。
日本口腔筋機能療法 (MFT) 学会委員。